

卒業後の進路 ①

一口に進路選択といっても、そもそもどのようなものがあるのでしょうか。今日はまずその話をしようと思います。この前の号で言ったこととかぶる部分もありますが、一度整理をしてみましょう。

今までに何度か話してきましたが、来年の3月31日をもって君たちの義務教育は終了します。その後の身の置き所は自分自身で決めなくてはいけません。進学をするのが当然のことではなく、選択枝のひとつとして就職するということもあります。

「勉強が嫌いだから、卒業をしたら働こう。」などと考えたことはありませんか？あるいは「勉強

話をしましたか？

先週の金曜日に第1回の進路希望調査が配られましたが、この土日で家の方と話をしましたか？提出期限は明後日になっているのでこれからでもいいのですが、勝手に判断して適当に書いて出すなんてことはくれぐれもないようにしましょう。

進路に関することは、自分の思いだけで決めずに必ず家の人と話をするようにしてください。君たちの考えと保護者の方の考えが同じにならないことがあるかもしれませんが、少なくともお互いに考えていることは知っておくようにすること。いよいよ希望の進路先を決定する間際になってから慌てなくてすむように、ふだんから話し合うように心がけておきましょう。

特に進学を考えているのなら、学校には行かせていただくわけです。経済的なことも関わってきます。間違っても、高校に行ってやる、などと勘違いをしてはいけません。自分の希望は、家の方にも納得してもらえるようにすることです。

枚方市立招提北中学校
3年学習進路部
20. 6.22.Mon.
第5号



力ある巣立ちのために

をしないのなら高校に行く必要はない。働きなさい。」などと言われた経験はないでしょうか？いれにしても、就職については安易に考えるのではなく、現実をよく知る必要があります。

就職する方法としては、大きく2通りあります。1つは縁故就職といわれるもので、家業を引き継ぐとか親や知り合いの紹介を介して雇ってもらうというものです。もうひとつはハローワーク（公共職業安定所）という職業紹介や雇用対策等を行う国が運営する機関を介して仕事を見つける方法です。例年北河内地区の中卒生に対する正社員の募集は数件しかなく、非常に狭い門になっているのが現実です。進学をよりも、むしろ就職を目指す方が厳しいということが言えます。

かつて三者懇談の場で「もっと遊びたいから高校へは行かずに働く。」と言った生徒がいました。その言葉に彼の父親は「就職して遊ぶような時間があると思うか？そんな考えで働いてもつわけがない。遊びたいなら高校へ行け。」と一蹴しました。そもそも勉強がいやだからというような理由で通用するほど、社会に出て働くことは甘いものではないということはわかっておくべきですね。

就職する道を本気で考える人は、早目に先生に知らせてください。ハローワークと連携しながら、保護者の方を含めてしっかりと話を進めていく必要があります。なお、進学をしないからといって勉強をしなくていいわけではありません。中学校の勉強は受験のためにするものではありません。